

信頼を基本とした町づくりを

新町長の浅妻茂一郎氏は、選挙公報に「地域活性化に力ける合併構想」「広域新潟圏時代への政策」として、文化施設の充実と農商工業の振興、学校教育・生涯教育の振興と福祉の充実、理想的な都市環境の実現と町おこし事業への取り組み、交通安全への対策、公園の設置などを唱えています。広報でインタビューしました。（聞き手 企画開発課・五十嵐主事）

安定なくして繁栄はない

二月五日に選挙で当選され、十三日から四年ぶりに町長室に戻られた心境はいかがですか。
町長 私は一度は引退した身です。それがまた町長として当選させていただきました。それはこの選挙

が町政の正常化ということが問題になった特殊な選挙だったからだと思います。

——昨年町議会議員の大量逮捕や百条委員会の設置などがあり、今回の町長選挙にはマスコミもひじょうに注目していました。選挙も相当厳しかったと思いますが。
町長 厳しかったね。頑張ったのは若い人たちが、後押ししてくれたからだと思います。

——浅妻町長は青木前町長の二期八年町長をしているわけですが、青木前町長の一期四年間を素直なところどうみていますか。

町長 私も若さと行動力に期待していました。しかし、申し上げにくいけど、怪文書が出たり、疑惑とか混乱とか言われ、結果的に町政の混乱が争点になったことは、惜しいし残念に思います。

——町長選の投票率が過去最低の八八%弱だったことは、町民の町政への不信やイヤ気の表れ、と新聞・テレビで言われていますが。
町長 私が一番思っていることは不信感をなくしたいことです。不信を信頼に、対立を協調にもっていかねばならない。安定なくして繁栄はないと思います。

——町民の判断をおおぎたいのです。昭和五十六年に浅妻さんが町長でしたが、都市問題懇談会を作り黒埼町の町づくりを研究したわけですね。そのときは新潟市との合併はしないことを前提にしたと思います。合併を考えるようになった理由は何かですか。

町長 町民に合併を望む声があるからです。特に選挙を通して感じました。その声は尊重しなければなりません。また、黒埼町の財政力と行政需要を考えなければなりません。人口増加に財政力がついていけるかどうか、ですね。

——ある新聞記者のインタビューで、三年を目途に考えたいと言っていました。
町長 三年というのはできるだけ早いうちに結論を出した方がよい

広報インタビュー

浅妻新町長に聴く

新潟市との合併問題 委員会検討、アンケート調査

——町政の施策を伺う前に、どうしても聴かなければならないことがあります。それは、新潟市との合併問題です。昨年辺りから合併問題が表に現れ、選挙では浅妻町長も青木前町長も、合併への取り組みを表明されました。浅妻町長は「ホップ・ステップ・ジャンプで行きたい」と言われていますし、合併に関するアンケート調査を選

挙公約に掲げました。

町長 合併問題については取り組みます。ホップで町を建て直し、ステップで自らの目標を立て、ジャンプで理想的な都市づくりをしたいのです。具体的に言うと、委員会を作り検討し、アンケートをとって町民の考えを聴きます。これは来年度予算案にも取りこみます。——もう少し詳しく町民に教えて

ください。

町長 合併問題の背景には町政のゴタゴタで黒埼町はいやだという声があります。昔風にいえば、家が貧乏になったから身売りするよいうなものです。そういう考えというのはいかがなものでしょうか。委員会検討してもらおうと思うのは、委員会で内容の高い密度の濃いものを出してもらい、それ

ず、今年、委員会を作り、アンケートで町民に問います。アンケートの結果を踏まえてそれなりの取

り組みをしなければならなくなるでしょう。

生活環境の整備に力を入れたい

——次に浅妻町長の基本的施策を聴かせてください。前のとときと違いはあるのでしょうか。

町長 基本は前と同じように「都市と農村が共存する町」ですね。やはり、道路、下水などの生活環境の整備が重点施策です。

——主な施策ですが、まず道路ですね。道路を生かしたまちづくりというのは本町の課題だと思います。青木前町長は南インターチェンジという考えを持っていましたが、町長 黒埼町は新潟県の動脈です。インターのある有利さを生かしたい。南インターという話は、似た考えは以前からあったわけですが、現在、インターを造るのは自治体負担で約二十億円はかかりますから、可能かどうか。

——公共下水道はどうですか。
町長 近い将来、考えていかなければと思います。

——ウォーターフロント構想、信濃川大橋の下の中州の開発を言われていますが、どういうものを考えているのですか。
町長 中州の面積が十町あります。驚きの木の桜並木も続いているし、河川改修も始まっている。具体的にどう開発するかは、これからの

検討問題でしょうが、ゲートボールとかのコートを作るのかですね。——善久の河川敷公園の整備が中断しています。再度始めますか。
町長 そうしたい予定です。黒埼はやはり川をいかにしなければ。——観光物産センターについては、五月には試験場が移転します。

町長 県とまだよく話をしているのですが、今後検討します。

——区画整理事業のため黒埼荘を移転しなければなりません。
町長 福祉センターのようなものを造りたいと思っています。財政が許せば来年から取り組みます。——こういう施設を造りたい、というものはありますか。
町長 農村部にある集落開発センターのようなもの、集会場のようなもの、町部や団地に造りコミユニティの場にしたい。

——スポーツや青少年の健全育成にも力を注ぐと言っています。
町長 感動のない人生はロボットです。特に若い人にはスポーツを通じて感動を覚えてほしいですね。また全天候のゲートボールコートも造りたいです。

——遅れているといわれる文化は、



浅妻茂一郎 新町長

大正9年10月生まれ68歳。昭和26年から黒埼村議会議員（5期）、45年収入役に、49年助役に就任。52年2月から60年2月まで町長。平成元年2月、町長に返り咲く。金巻55の1。「行政も家庭も信頼が何より。趣味はゲートボールで、健康には自信がある」とのこと。

という意味です。青木前町長が言われた政令指定都市構想を否定はしません。それは長い年月がかりです。より積極的な考えで臨みたいわけです。

——町民の中にはもう合併することに決まった、というように思っている人もいます。しかし、合併についてはもう少し決まらねえと思いませんか。

町長 ですから、委員会です。いろいろ検討してもらわねばなりません。消防、水道、下水などを考えて、広域行政でやれるものもあるでしょう。合併というのは相手が

ある話です。黒埼もいい、新潟市もよくなるという大前提がなければ不可能です。

——町長の考えでは、合併をするかしないか、じっくり研究検討したいということですか。
町長 じっくりと言うと後退に思われます。肝心なことは、合併は町長と議会が十分に話し合わなければなりませんし、二万三千人の町民の考えが基本です。

——再度聴くことになるかもしれませんが、いま町長が考えている合併問題の具体的取り組みは、町長 何度も言うようですが、ま

町長 公民館活動など活発だと思います。ただ、文化会館的な建物を造るのは難しいと思います。

——庁舎はどうですか。
町長 現実としては無理でしょう。今の増築したいと思っていますが。

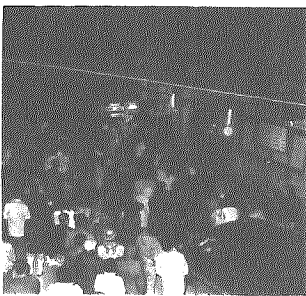
——役場の機構改革は。
町長 したいのですが。今は無理です。また、職員を増やせませんので、今の職員にもっと自発的に研修してほしい。

——ふるさと創生の一億円はどう使おうと思っていますか。
町長 一応、基金にしておいて、使い道を町民や役場内の声を聴いて決めたいと思います。また、町出身者の東京東人会みたいなのを作りたいたいと考えています。

地域に Outreach 町民と対話

——町民の声を聴くと言われますが、その方法は。夜の町長室は。
町長 夜の町長室はやりません。私の方から必要に応じて、あるいは年に一回ぐらい、地域に出かけに行き、町民と対話したいですね。地域行政懇談会のようなものを作りたいと思います。

——また、声を聴くだけ、行政だけでは町づくりはできません。
町長 今までは行政に頼り過ぎていた面があったと思います。やっぱり、みんなやらないと。行政、議会、町民と信頼を基本にした町づくりをしたいと思っています。



町長選挙

役場前で開票速報を見る人々。2月5日夜9時ごろ。結果は浅妻茂一郎8058票、青木太一郎5895票。投票率87.6%。